

エコ交通 武漢の新エネルギー車概況

大分市武漢市事務所 趙 南星

武漢市は「省エネルギー、環境にやさしい」都市造りを目指しています。大気汚染やPM2.5問題が深刻化する現在、三大大気汚染源（排気ガス、建設工事の塵芥、工場排煙）の1つである排気ガスの問題を解決するため、市をはじめ、市民、企業、科学研究機関等が協力し、新エネルギー車の利用、生産、販売、普及及び政策支援に取り組んでいます。

新エネルギー車とは、ガソリンや軽油以外の非従来型自動車用燃料を動力源とし、新しい技術と構造を備えた自動車を指します。新エネルギー車には、ハイブリッドカー（HEV）、純電気自動車（BEM、ソーラーカー）、燃料電池電気自動車（FCEV）、水素自動車などがあります。ガソリンや軽油を使わないので、新エネルギー車は排出ガスが比較的少なく、環境保全に向いています。

エコな公共交通

2012年に武漢市は排ガスの環境保護基準を達成することができなかった3,000台の老朽化したバスを廃棄しました。それ以来、ガソリンと電気を併用するハイブリッドバスを毎年導入し続け、2014年には700台のハイブリッドバスを武漢市の40路線で運行しています。2015年度には、ハイブリッドバスに加え、電気バスの導入に力を入れ、新たに700台の導入を決定しました。

さらに長期計画として、今後は新エネルギーを使用したバスを導入することとし、2017年末までにバス全体の3分の1は新エネルギーを使用したバスとなる予定です。

また、2015年5月からタクシー業界でも電気自動車の導入が始まっており、現在、BYD社のE6電気自動タクシーが20台使用されています。

家庭向けの新エネルギー自動車

2014年12月、武漢市で第1回「中国（武漢）国際新エネルギー車産業博覧会」が開催されました。わずか3日間で52,500人の来場があり、会場での契約成立額は1.27億元（約25億円）に達しました。この金額は市民が新エネルギー車産業へ注目していることを表しており、今年の11月に2回目の展覧会が開催される予定です。

新エネルギー車に関しては、日産傘下の電気自動車とハイブリッド車が有名ですが、武漢の一般市民にとっては、経済的な国産電気自動車の方が魅力的です。国内電気自動車の大手企業としては「BYD」、「北京汽車グループ」、「衆泰汽車」、「上海汽車」、「吉利汽車」、「奇瑞汽車」、「江淮汽車」などがよく知られています。そのうち、BYD社の「秦」と「元」の2種類はトップレベルの電気自動車として有名であり、「秦」は20万元（約393万円）という高額にも関わらず、2015年の上半期で累計12,462台の販売実績を挙げました。一方、割安な自家用車としては、BYD社の「知豆」という電気自動車が有名であり、ベンツ社の「SMART」によく似て可愛らしく、女性の目を引きつけます。この電気自動車は1月～4月の累計販売台数が3,058台に達し、市場シェアの10%を占めました。



新エネルギー車への優遇政策

電気自動車を普及させるために、武漢市は四大優遇政策を実施しました。その概要は次の4点です。

- ①車種のタイプによって、国と市から合計7万元から12万元（138万円から236万円）の購入補助金を出す。車両購入時に販売価格から直接差し引かれる。
- ②市内のすべての道路、橋、トンネルの通行料金無料化。
- ③奇数・偶数日の番号制限を無くし、いつでも出かけられる。
- ④市内のすべての電気自動車用充電スタンドで充電の無料化。

電気自動車の普及に向けては、充電スタンドが足りないことが最も課題であるとされています。電気自動車を購入する際、家庭に充電スタンドを取り付けますが、家から離れてしまうと、充電するところをなかなか見つけられませんが、現在、市のプロジェクトの一環として、市内には充電施設13箇所、充電スタンド352本が設置されていますが、さらに年内には公共駐車場、大型商業スポット、公園などに充電スタンド計4,005本を新たに設置する予定です。

産学連携 武漢理工大学の水素電池開発

前述の電気自動車のほか、武漢市では、大学や研究所が水素を動力にする水素自動車用のバッテリー開発に力を入れています。

水素燃料電池を導入した自動車は、1回の充電で約400kmの連続走行が可能であり、武漢市から武当山までの距離に相当します。水素を補充するのにわずか3分～5分しかかからないため、同自動車は電気自動車に比べ、高い潜在能力を秘めていると言われています。

武漢市で開催された国際水素経済及び燃料電池協力計画商談会によると、水素電池は各国政府が重要視しているハイテク産業となっています。最近、武漢理工大学が研究開発した水素燃料核心部品で作られた電池はリュックサック程度の大きさとなっていますが、今後、さらに小型化するため、武漢理工大学、同済大学、中国自動車技術研究センターなどの専門家が中国を代表する水素動力開発団体を結成しました。

武漢市を、省エネルギーかつ、環境にやさしい都市にするためには、一部の人だけでなく、市民一人一人が意識し、環境を大切に思う気持ちが重要だと考えます。公共交通機関の利用や、新エネルギー車の使用を心がけ、環境保全に対する意識を高め、よりよい環境を後世に残していくことが求められています。